

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援チャーム		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～ 令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもや保護者のニーズに合わせた支援をおこなっている。	子ども本人の意思を汲み取るよう努力したり、保護者の意見を取り入れ、個々のニーズに合わせて課題や活動を提供している。	言葉で表現できない場合でも、子どもの意思を汲み取れるよう、様々なツールを使っていく。
2	子どもの特性に合わせて活動を提供している。	子どもの特性に合わせて課題や活動を提供したり、個室や仕切りを使って安心できる空間を提供している。集団で活動する際は個々の発達段階に合わせてプログラムを変更する等配慮している。	特性を理解し、個々の特性に合わせた支援をおこなえるよう、子どもとのコミュニケーションを大事にし、行動の観察をおこなっていく。障がい特性について職員がさらに知識を身に付けていく。
3	保護者からの子育ての相談があった際には専門的回答ができるようにしている。	保護者とのコミュニケーションを大事にしている。	保護者とのコミュニケーションを深めていく。保護者の立場に立って、子育てにおける不安に寄り添えるようにしていく。また、保護者会の開催等検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもと活動する機会がない。	地域との連携が足りない。また、地域で開催されるイベント等の情報収集が足りない。	地域で開催されるイベントの情報を収集し、事業所が参加できるか問い合わせをしていく。
2	ペアレントトレーニングの知識が不足している。	研修等参加しているが、職員一人ひとりがさらに知識を身に付けていく必要がある。	専門書や動画研修等活用しながら、保護者支援の方法について、職員一人ひとりが知識を深めていく。
3	保護者同士が十分に関われる場を提供できていない。	親子で参加できる行事は提供しているが、子どもと一緒にいると、保護者同士が十分に話し合える時間がとれない現状がある。	保護者の意見を聞き取り、保護者同士で集まって話し合える場の提供について検討していきたい。